

## 要旨

## 研究テーマ「企業のクラウドサービス利用状況と課題」

## 1. 背景・目的

昨今、インターネットの高速化や仮想化技術の普及、利用端末の多様化により、IT技術を活用した業務効率化が進んできている。現在では、汎用的なサービス（機能）が、クラウドサービスとして提供されてきている。しかしながら、世界中で発生しているサイバー攻撃が年々巧妙化していくなか、クラウドサービスは決して安全とは言えず、インターネット上に情報を置くことに対する懸念を払拭できない。（図1）

本グループでは、セキュリティに不安があることがクラウドサービス導入の障害となっている企業に対して、検討課題と対応策を提供することを目的とする。

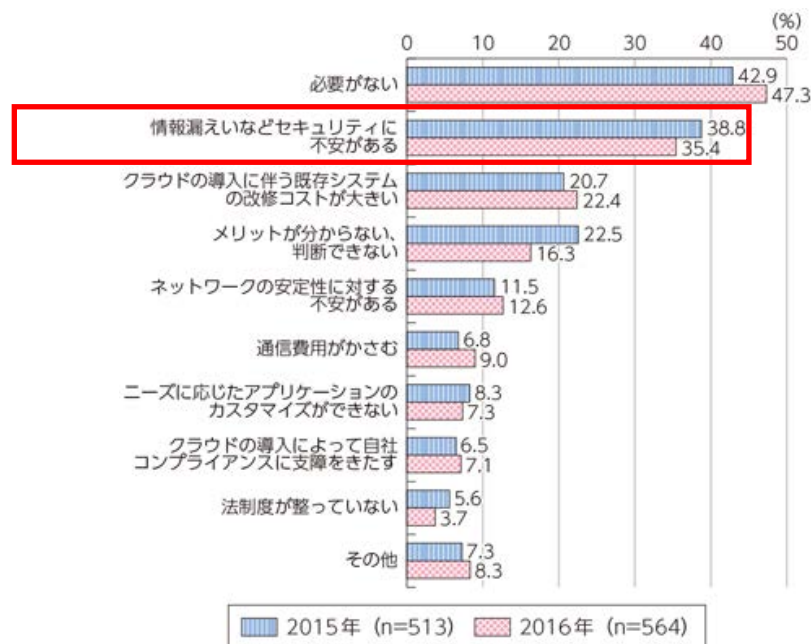


図1 クラウドサービスを利用しない理由

（出典：「平成 29 年版情報通信白書」（総務省），2017/11/07時点，

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc262140.html>）

## 2. 研究概要

クラウドサービスは様々なサービスが提供されており、利用者やサービス用途が広範囲である。利用するクラウドサービスにより各企業の検討課題が大きく異なると予想されるため、本研究結果が抽象的にならないようにするために、導入実績が多く、各社の全社員が利用する「グループウェア」を対象とし、セキュリティ対策について研究することとした。（図2）

まず、本グループメンバーにて仮説を立て、その仮説を検証するために、UNIRITAユーザ会会員を対象にアンケートを実施して分析を行った。

## 要旨

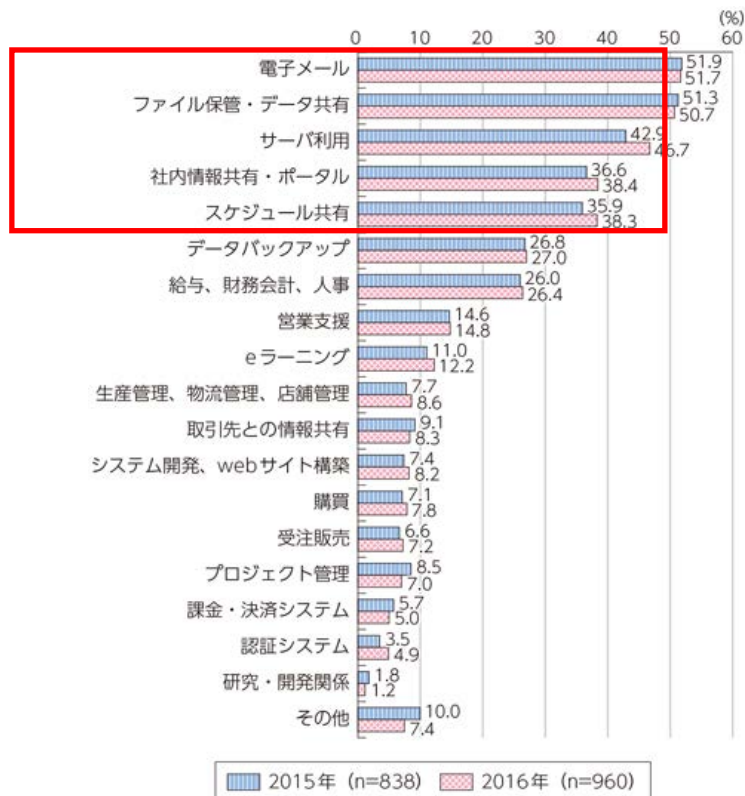


図2 クラウドサービスの利用内訳

(出典：「平成 29 年版情報通信白書」(総務省), 2017/11/07時点,  
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc262140.html>)

## 3. 考察とまとめ

アンケート結果より、クラウドセキュリティへの検討課題だけではなく、自社内における検討課題（「自社内で十分な体制が組めない」、「現行業務の大幅な見直しが必要となる」、「費用対効果が見合わない」など）も挙がっていることが分かった。

また、クラウドサービスへ移行した企業の傾向をみると、業務改善の一環としてクラウドサービスを利用している企業が多く、セキュリティよりも利便性向上を優先したという企業が多いことが分かった。

一定のセキュリティレベルを確保するために、「利用者」、「利用端末」、「ネットワーク」、「クラウドサービス」の4つのポイントにおけるセキュリティ対策を検討・実施するとともに、5つ目のポイントとして「クラウド認証サービス」を活用することで、セキュリティ強化と利便性向上の両方を実現することができる。クラウドサービスを検討している企業は「クラウド認証サービス」も視野にいれてはいかがだろうか。

以上

※文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または各社に帰属する標章もしくは商号です。